

児童生徒理解・教育支援シート（試案）

記入例C

中学1年生の9月に欠席が急増したため、
10月に学年別シートを作成し、
支援計画を共有した。
しかし、その後は急減し、30日には至らなかったケース。
（ケース会議等は未開催）

(小)

〇〇町立関第二小学校

(中)

〇〇町立関中学校

(高)

国研 C太

児童生徒理解・教育支援シート(共通 シート)

作成日:平成28年3月27日
作成者 H27担任 ○○ ○○ 追記者 HO(記入者名)／HO(記入者名)／…

名前(よみがな)	性別	生年月日
国研 C太(こっけん しいた)	男	平成14年11月5日

○学年別欠席日数等	追記日→	○／○						3/27						
年度		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29				
学年		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	高4
出席しなければならない日数								200						
出席日数								175						
別室登校								0						
遅刻								13						
早退								3						
欠席日数								25						
指導要録上の出席扱い								0						
①教育支援センター								0						
②教育委員会所管の機関(①除く。)								0						
③児童相談所・福祉事務所								0						
④保健所、精神保健福祉センター								0						
⑤病院、診療所								0						
⑥民間団体、民間施設								0						
⑦その他の機関等								0						
⑧IT等の活用								0						

○支援を継続する上での基本的な情報
特記事項(本人の強み、アセスメントの情報等)

○家族関係
特記事項(生育歴、本人を取り巻く状況(家族の状況も含む。)、作成日以降の変化等)

備考欄

児童生徒理解・教育支援シート(学年別 シート)

担任名 ○○ ○○

作成日 平成27年10月3日

作成者 担任

追記者 ○／○(記入者名)、○／○(記入者名)、…

管理職名 校長・○○ ○○

名前	性別	学校名	学年	学級
国研 C太(こっけん しいた)	男	関中	1	A

○支援チーム(校内・校外)

校内不登校対策委員会(担任、学年主任、学年生徒指導担当、校長、教頭、養護教諭、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーター)、教育相談部会(不登校対策委員会+各学年生徒指導担当+保健主事)

○月別欠席状況等	※追記日→	10/3	10/3	10/3	10/3		10/3	11/1	12/1	12/23	2/2	3/1	3/27	
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
出席しなければならない日数		15	18	22	13		20	21	19	18	15	19	18	198
出席日数		15	18	22	13		12	13	17	16	15	18	17	176
別室登校		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
遅刻		2	0	1	1		4	3	1	1	0	0	0	13
早退		0	0	0	0		0	3	0	0	0	0	0	3
累積欠席日数		2	2	2	2		10	18	20	22	23	24	25	25
欠席日数(出席扱いを含む)		2	0	0	0		8	8	2	2	1	1	1	25
指導要録上の出席扱い		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
①教育支援センター		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
②教育委員会所管の機関(①除く。)		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
③児童相談所・福祉事務所		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
④保健所、精神保健福祉センター		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
⑤病院、診療所		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
⑥民間団体、民間施設		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
⑦その他の機関等		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
⑧IT等の活用		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0

○不登校(継続)の理由

○本人の状況・意向	1学期	2学期(10/3～)	3学期 3/27
該当せず		9月に病気を理由に連続して1週間休む。その後も遅刻が目立つため、10月1日の不登校対策委員会に状況を説明。不登校の兆しとして対応する。	欠席、遅刻は散見されるが、それぞれに異なる理由があり、学校生活でも特に変わったことはない。

○保護者の状況・意向	1学期	2学期(10/3～)	3学期 3/27
該当せず		欠席のたびに保護者から病気との連絡あり。朝になると熱が上がる状況を心配しつつ、学校生活に何が原因があるのではという問い合わせあり。	病気も回復し、家庭で学校での出来事について聞かれれば答えている状況あり。保護者も今のところ特段の心配はないとのこと。

○具体的な支援方針		具体的な支援内容		経過・評価
	目標	学校	関係機関	
1学期				
2学期	出欠にかかわらず、担任が保護者と緊密に連絡を取るとともに、本人の様子を引き続き学年で把握する。11月以降の不登校対策会議においても、状況を確認する。 10月3日	左記の通り	現時点では該当せず	11月に入り元気に登校している。それに伴い大幅な遅刻もなくなる。不登校の兆しとらえていたが、病気の改善とともに状況もよくなっているため、欠席と遅刻・早退の状況のみを会議で報告すること。
3学期	特定の月に欠席が増加した履歴があるため、引き続き欠席については理由の如何に関わらず敏感に対処する。保護者との定期的な連絡も欠かさないこと。 12月23日	左記の通り	現時点では該当せず	特段状況に変化がなければ、目標以上の対応を行う必要はない。

○次年度への引継事項(支援・指導の参考となるエピソード等も含め、多様な視点で記入)

・1学期には元気に登校していたが、2学期当初から欠席が集中的に増え、体育大会の練習等と関連した登校しぶりを疑った。本人は体育が苦手なため、欠席理由が本当に病気だけであったのかは不明だが、11月以降は何事もなかったように元気に登校していることから、長期化にはつながらなかった。

・保護者との定期的な連絡で家庭と学校での様子を互いに把握できたこと、その上で双方の状況に大きな違いがなかったことから、慌てずに見守る態勢をとったことが結果的にはよかったのではないかと考える。友達の励ましもあり、体育大会にも参加した。

・家庭訪問をすると、母親と本人と一緒に話ができて、家庭でのストレスはあまり感じなかった。

○ただし、体育的な行事に対する苦手意識は強いいため、今後も欠席が連続した際には注意が必要である。